

フロントガラスの内側はピッカピ力に 亂反射と曇りを防ぐ

自動車のフロントガラスは外側はワイパーや洗車時に綺麗に拭き取られるが、内側に付着する汚れ 太陽や対向車のライトによる乱反射は起きないか また、汚れが核となり水蒸気が付き曇りの原因にならないか 常にガラスの内側は抜けたウエスで汚れを拭き取り乾いたタオルでピカピ力に磨けば、視野確保に役立ち完全運転に寄与するのでは こんな注意書き前メーカー取説に書いていない

ChatGPT:

おっしゃるとおりです。自動車のフロントガラス内側の汚れは、非常に軽視されがちですが、視界不良の重要な原因となります。そして、以下のような安全上の影響を及ぼします。

■ フロントガラス内側の汚れが引き起こす問題

① 光の乱反射(ハレーション)

- 内側の皮脂やタバコのヤニ、エアコン由来の化学成分などが膜状に残ると、
→ **朝日・夕日や対向車のライトでギラつき(乱反射)**が生じる。
- 特に夜間・雨天時に危険。
- ヘッドライトの眩しさが拡散して見えにくくなる。

② 曇りの発生(結露の核)

- 汚れやホコリが水蒸気の「凝結核」となりやすく、
→ 内側に曇りが生じやすくなる。
- エアコンの効きが悪くなったと感じる原因にもなる。

■ 運転視界と安全運転への影響

- フロントガラス内面をこまめに清掃し、乾拭きで仕上げることで、
→ 亂反射の防止・曇りの防止・視界のクリア化につながる。
- 特に高齢者や視力が落ちてきた人にとっては、わずかな曇りやギラつきが致命的な視認性低下につながる。

■ 自動車メーカー取扱説明書では？

ほとんどの国産車・輸入車の取説には：

- 「内窓の掃除は中性洗剤で…」程度の簡易記述しかない。
- 運転視界確保のために“常に磨け”とは書かれていないことが多い。

- しかし、実際には運転支援システム(カメラの誤作動)やADASの誤認識も、内窓の曇りや汚れで発生する可能性がある。

■ 推奨される実践方法

- 湿ったマイクロファイバークロスで皮脂汚れを除去。
- 乾いたウェスまたはガラス用セーム革で乾拭き仕上げ。
- 曇り止め剤(アルコールベース)を薄く塗布しておくのも効果的。

■ ご提案:メーカー・取説への改善案

「安全運転のため、定期的にガラス内側を清掃し、乾いたクロスで仕上げ拭きをすることで、乱反射や曇りによる視認性の低下を防ぐ効果があります。」

というような一文を、取扱説明書や安全運転マニュアルに明記することが望されます。

自動車メーカー・国交省・警察庁宛の意見書

ChatGPT:

以下に、自動車メーカー・国土交通省・警察庁宛に提出できる形式の意見書(提案書)草案を示します。用途に応じてPDF化や署名欄追加も可能です。

運転視野確保に関する提案書

提出日:2025年●月●日

提出者:●●(氏名/団体名)

■ 件名:

フロントガラス内側の定期清掃に関する取扱説明書・安全啓発資料への明記要望

■ 宛先:

- 国土交通省 自動車局 安全・環境基準課 御中
- 警察庁 交通局交通企画課 御中
- 各自動車メーカー品質保証部門・サービス企画部門 御中

■ 背景と問題意識:

近年の自動車は外観の安全装備や高度運転支援システム(ADAS)が進化している一方で、**視認性の確保**という最も基本的な安全対策が、運転者の意識や取扱説明書上で軽視されている傾向があります。

特にフロントガラス内側の汚れは、以下のようなリスクを高める要因となっています：

- 太陽光や対向車ライトによる**乱反射(ハレーション)**の発生
- 内部の汚れ・ホコリが水蒸気の凝結核となり曇りを誘発
- 夜間・雨天など悪条件下での視界悪化による事故リスクの上昇

■ 提案内容：

運転者によるフロントガラス内側の清掃は、単なる美観ではなく、**安全運転に直結する視界確保行為**です。よって、以下のような対応を求めます。

【1】自動車メーカーへの要望：

- 取扱説明書やディーラー納車時の説明において、以下の注意書きを明記すること：

「運転時の視界を確保するため、フロントガラスの内側は定期的に柔らかいクロス等で清掃し、乾いたタオルで仕上げ拭きを行ってください。汚れは光の乱反射や曇りの原因となり、視認性を著しく低下させます。」

- ナビ画面やメーターパネル上に**「窓の内側清掃をおすすめします」**等のソフトウェア的リマインド機能を追加検討。

【2】国土交通省への要望：

- 道路運送車両の保安基準、または付随する使用管理マニュアルにおいて、「運転者による視界確保行為(特に内窓清掃)」を推奨事項として明記するよう検討。
- 安全運転講習(高齢者講習、初心者講習など)にて、ガラス内側清掃の重要性を啓発。

【3】警察庁への要望：

- 運転視界不良(曇りや内側の汚れ)による事故・違反の統計を把握し、広報・交通安全キャンペーンにて「内窓の清掃」の啓発を強化。

■ 結語：

フロントガラスの外側はワイパー・洗車で常に清掃されていますが、**内側の汚れこそが重大事故の遠因となり得る**という認識を、メーカー・行政・運転者が共有する必要があります。

内側ガラスの清掃を日常的な安全習慣とし、取説や制度面で明確に位置付けることを強く要望いたします。

以上